

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-167277

(43)Date of publication of application : 23.06.1998

(51)Int.Cl.

B65D 21/08

B65D 85/72

(21)Application number : 08-352782

(71)Applicant : SAKAI BIKA KOGYO KK

(22)Date of filing : 13.12.1996

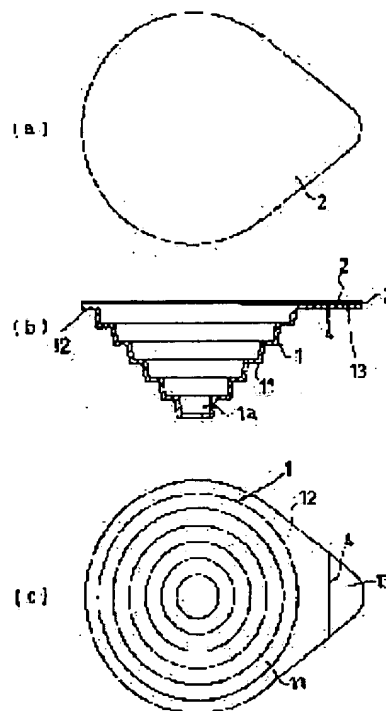
(72)Inventor : SAKAI MASATO

## (54) SMALL CONTAINER FOR LIQUID FOOD

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To smoothly draw out relatively viscous liquid food without forming a large opening in a container body, by forming circumferential steps at the peripheral face of the container body and squashing the body so as to collapse the steps and making the height of the body compressible.

**SOLUTION:** A plurality of steps 11 are nearly concentrically formed in the circumferential direction at the peripheral face of a container body 1. On unsealing the container body, a projection 13 is pulled up together with a cover member 2 integrally heat-sealed and after the cover member 2 has been peeled off by a required volume, the container body is squashed so as to collapse the steps 11 and compressed to obtain a nearly even height thereof. In this way, the liquid food can be smoothly and completely drawn even when the unsealed opening area is small, by drawing the relatively viscous liquid food contained in the container 1a so as to squeeze it.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-167277

(43) 公開日 平成10年(1998) 6月23日

(51) Int. Cl.<sup>3</sup>

B 6 5 D 21/08  
85/72

識別記号

F I

B 6 5 D 21/08  
85/72

E

審査請求 未請求 請求項の数1 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号

特願平9-352782

(22) 出願日

平成 8 年 (1996) 12月18日

(71) 出願人 394002534

酒井美化工業株式会社

大阪府岸和田市上野町東10-82

(72) 発明者 酒井 正人

大阪府岸和田市上野町東10-82 酒井美化工業株式会社内

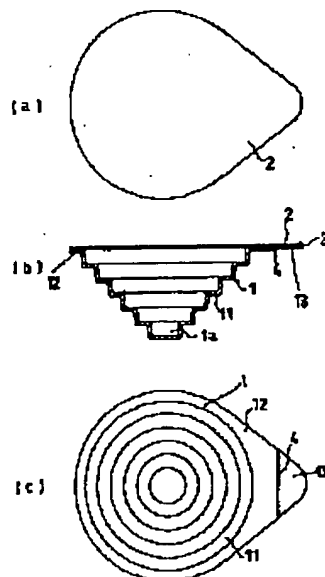
(74) 代理人 弁護士 森 浩 (外 1 名)

(54) 【発明の名称】 液体食品用小容器

(57) 【要約】

【課題】 内部に収容した比較的粘度の高い液体食品を、容器本体の開口面積を大きく形成することなく、円滑に取り出すことができる液体食品用小容器を提供すること。

【解決手段】 容器本体 1 の上端周縁 12 に蓋材 2 をホットメルト接着層 3 を介してヒートシールして用いる液体食品用小容器において、容器本体 1 の周面に周方向の底部 11 を形成することにより容器本体 1 の高さを圧縮可能に形成する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 容器本体の上端周縁に蓋材をホットメルト接着層を介してヒートシールして用いる液体食品用小容器において、容器本体の周面に周方向の段部を形成することにより容器本体の高さを圧縮可能に形成したことを特徴とする液体食品用小容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、液体食品用小容器に関し、特に、ケチャップ、マヨネーズソース、ジャム等の比較的粘度の高い液体食品を収容するのに適したディスプレイザル式の液体食品用小容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、コーヒー用のミルク、砂糖液等の比較的粘度の低い液体食品を収容する容器として、従来より、図4に示すようなディスプレイザル式の液体食品用小容器が広く使用されている。

【0003】 このディスプレイザル式の液体食品用小容器は、液体食品を収容する収容部1aを形成した容器本体1の上端周縁12に蓋材2をホットメルト接着層3を介して剥離自在にリング状にヒートシールするものである。そして、この液体食品用小容器は、容器を開封するときに蓋材2を保持しやすくするために、容器本体1の上端周縁12の一部に突出部13を形成し、その基部に表面からノッチ4を形成するとともに、突出部13と蓋材2とをスポットヒートシールして構成している。

【0004】 このディスプレイザル式の液体食品用小容器が対象とする食品は、主として、コーヒー用のミルク、砂糖液等の比較的粘度の低い液体食品であるため、容器を開封するときに容器を保持する力によって容器が押し潰され、容器に収容された液体食品がこぼれないように、この液体食品用小容器は、所要の強度を有するように、例えば、容器本体の周面に補強のために高さ方向の凹凸を形成して製造するようにしている。

【0005】 ところで、このディスプレイザル式の液体食品用小容器の有する液体食品を衛生的に、作業効率よく充填することができ、かつ、開封時の使用勝手がよい等の利点により、近年、この液体食品用小容器が対象とする食品の種類が、しょうゆ、ソース、たれ等の比較的粘度の低い液体食品のほか、ケチャップ、マヨネーズソース、ジャム等の比較的粘度の高い液体食品にまで拡大してきている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、ケチャップ、マヨネーズソース、ジャム等の比較的粘度の高い液体食品を収容する容器に、このディスプレイザル式の液体食品用小容器を用いた場合、開封時の開口面積が小さいと、食品の持つ粘性により、食品を容器から円滑に取り出すことができず、このため、開封時の開口面積を大きく

く取れるように容器本体の開口面積を大きく形成する必要がある。しかしながら、容器本体の開口面積を大きく形成した場合、液体食品用小容器の形状に制約が加わり、製造コストが上昇するとともに、容器を開封するときに大きな力を要する等、開封時の使用勝手が悪化するという問題点があった。

【0007】 本発明は、上記従来のディスプレイザル式の液体食品用小容器が有する問題点に鑑み、内部に収容した比較的粘度の高い液体食品を、容器本体の開口面積を大きく形成することなく、円滑に取り出すことができる液体食品用小容器を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するため、本発明の液体食品用小容器は、容器本体の上端周縁に蓋材をホットメルト接着層を介してヒートシールして用いる液体食品用小容器において、容器本体の周面に周方向の段部を形成することにより容器本体の高さを圧縮可能に形成したことを特徴とする。

【0009】 この液体食品用小容器は、容器本体の上端周縁にホットメルト接着層を介してヒートシールした蓋材を、所要量だけ剥離した後、容器本体の周面に周方向に形成した段部を折り畳むようにして容器を押し潰し、容器本体の高さを圧縮することにより、容器に収容されている液体食品を絞り出すようにして円滑に取り出すことができる。

【0010】

【発明の実施の形態】 以下、本発明の液体食品用小容器の実施の形態を図面に基づいて説明する。

【0011】 図1～図2は、本発明の液体食品用小容器の第1実施例を示す。この液体食品用小容器は、図4に示す従来の液体食品用小容器と同様、ディスプレイザル式のもので、収容部1aにケチャップ、マヨネーズソース、ジャム等の比較的粘度の高い液体食品を収容した状態で容器本体1の上端周縁12に蓋材2をホットメルト接着層3を介してリング状にヒートシールするとともに、容器を開封するときに蓋材2を保持しやすくするために、容器本体1の上端周縁12の一部に突出部13を形成し、その基部に表面からノッチ4を形成し、突出部13と蓋材2とをスポットヒートシールして構成している。

【0012】 液体食品用小容器の容器本体1の周面には、周方向に複数の段部11を、略同心円状に形成することにより、図2に示すように、容器本体1の上端周縁12にホットメルト接着層3を介してヒートシールした蓋材2を、所要量だけ剥離した後、容器本体1を、その周面に周方向に形成した段部11を折り畳むようにして押し潰し、容器本体1の高さを略均等に圧縮することにより、収容部1aに収容されているケチャップ、マヨネーズソース、ジャム等の比較的粘度の高い液体食品を絞り出すようにして円滑に取り出すことができるように構

成している。

【0013】液体食品用小容器の容器本体1の周面に形成する周方向の底部の形状は、本実施例の、略同心円状に形成した複数の底部11に限定されず、例えば、図3に示す本発明の液体食品用小容器の第2実施例のように、螺旋形の底部11aとすることもできる。この場合において、底部の形状は、限定されるものではないが、製造の容易性、特に、離型の容易性を考慮して、断面径が下方ほど縮小した形状に形成することが望ましく、また、収容部に収容されているケチャップ、マヨネーズソース、ジャム等の比較的粘度の高い液体食品を円滑に、かつ完全に取り出すことができるように、容器本体1の高さを略均等に圧縮することができる形状、すなわち、複数の底部を、略水平に形成することが望ましい。

【0014】なお、液体食品用小容器の容器本体1には、従来液体食品用小容器と同様、ポリスチレン樹脂（PS）やポリプロピレン樹脂（PP）等を基材とし、必要に応じて、エチレン・ビニルアルコール共重合体樹脂（EVOH）等のガスバリア性を有する樹脂等を複合化又は多層化して使用し、また、蓋材2にはポリエチレンテレフタレート（PET）フィルム及びアルミ箔をシーラント層を介して積層接合した複合材を使用するが、これらの部材の材質は、上記のものに限定されず、液体食品用小容器に収容する食品の種類、容器の用途に応じて他の合成樹脂、紙、金属等から任意に選定することができる。

【0015】この液体食品用小容器の開封は、図2に示すように、容器本体1に形成した突出部13をノッチ4を形成した部分で折離し、そのまま突出部13をヒートシールにより一体になった蓋材2と共に容器本体1の上方に引き上げるにより行う。このようにして、容器本体1の上端周縁12にホットメルト接合層3を介してヒートシールした蓋材2を、所要量だけ剥離した後、容器本体1を、その周面に周方向に形成した底部11（11a）を折り畳むようにして押し潰し、容器本体1の高さを略均等に圧縮することにより、収容部1aに収容されている液体食品を絞り出すようにして取り出すようにする。これにより、開封時の開口面積が小さい場合でも、収容部1aに収容されているケチャップ、マヨネーズソース、ジャム等の比較的粘度の高い液体食品を円滑に、かつ完全に取り出すことができる。

【0016】このように、この液体食品用小容器は、ケチャップ、マヨネーズソース、ジャム等の比較的粘度の

高い液体食品を収容する容器として使用するのに特に適しているが、少なくとも、容器を開封するときに容器を保持する力によって容器が押し潰されない程度の所要の強度を有するように製造することにより、ミルク、砂糖液、しょうゆ、ソース、たれ等の比較的粘度の低い液体食品を収容する容器として使用することも可能である。

【0017】

【発明の効果】本発明の液体食品用小容器によれば、容器本体の上端周縁にホットメルト接合層を介してヒートシールした蓋材を、所要量だけ剥離した後、容器本体の周面に周方向に形成した底部を折り畳むようにして容器を押し潰し、容器本体の高さを圧縮することにより、容器に収容されている液体食品を絞り出すことができるため、ケチャップ、マヨネーズソース、ジャム等の比較的粘度の高い液体食品を、容器本体の開口面積を大きく形成することなく、円滑に取り出すことができる。これにより、容器本体の開口面積を特に大きく形成する必要がなくなり、液体食品用小容器の形状の自由度が大きく、製造コストを低廉にできるとともに、大きな力を要することなく容器を開封することができ、使用勝手を良好にできる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の液体食品用小容器の第1実施例を示し、（a）は平面図、（b）は正面断面図、（c）は底面図である。

【図2】本発明の液体食品用小容器の使用後の状態を示す正面断面図である。

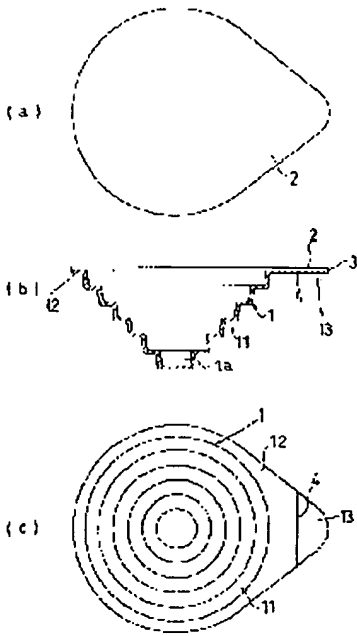
【図3】本発明の液体食品用小容器の第2実施例を示し、（a）は平面図、（b）は正面断面図、（c）は底面図である。

【図4】従来のディスプレイ液体食品用小容器を示し、（a）はその平面図、（b）はその正面断面図である。

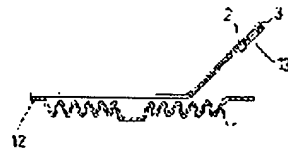
【符号の説明】

- |     |           |
|-----|-----------|
| 1   | 容器本体      |
| 1a  | 収容部       |
| 11  | 底部        |
| 11a | 底部        |
| 12  | 上端周縁      |
| 13  | 突出部       |
| 2   | 蓋材        |
| 3   | ホットメルト接合層 |
| 4   | ノッチ       |

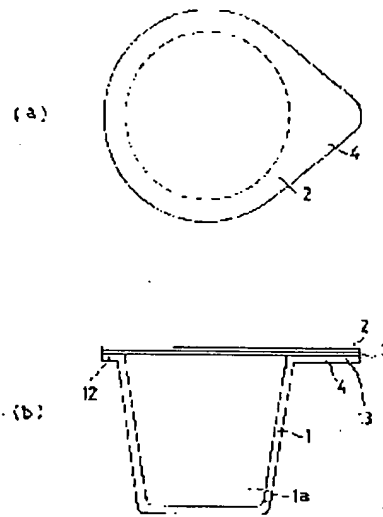
【图 1】



【图 2】



【图 4】



【图 3】

